

府中市議会 第19回議会改革特別委員会会議録

令和元年8月9日午後2時1分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委員	長	三藤	毅	副委員	長	本谷	宏行
委員		加納	孝彦	委員		安友	正章
委員		土井	基司	委員		加島	広宣
委員		岡田	隆行				
副議長		大本	千香子				

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事務局長 赤利 充彦 主任主事 小川 愛美

1 本日の会議に付した事件

(1) 議員定数について

(2) その他

~~~~~

午後2時1分 開会

○委員長（三藤毅君） ただいまから、議会改革特別委員会を開会いたします。

本日の議事は、お手元に配信しておりますレジュメに沿って進めさせていただきます。それでは、議事に入ります。本日の議題は、議員定数についてであります。前回の議論の中で、各会派で議論して報告していただいた内容を確認しました。各会派における議論の経過、結論について、御報告をお願いいたします。

まず、創生会からお願いします。

○委員（本谷宏行君） 創生会としては、前回18から20人という報告をさせていただいたのですが、一応皆さんからのご意見も会派のほうに持って帰らせていただいております。その後会派の中でいろいろ協議をした結果、一つの数字に絞ることが必要だということで、創生会としては19人という結論に至りました。

○委員長（三藤毅君） 続いて、市民クラブの報告をお願いします。

○委員（土井基司君） 市民クラブは、前回の議論も検討したんですが、やはり議会改革を進めている内容をきっちりやった上で判断すべきということで、今回について現状維持、20人ということです。あと、3委員会を考えたときに、各委員会に委員長を除いた

ときにできるだけ可否同数にならないようにしようとすれば、6人ずつだから6掛ける3で18ですよ。議長は加わらないほうがいいだろうということで、あとは予算委員会のことも考えたら、副議長のこともあるので、今の20人というのは妥当な数ではないかなということですよ。

○委員長（三藤毅君） 続いて、公明党の報告をお願いします。

○委員（加島広宣君） 前回の各会派のご意見を伺いまして、会派のほうでも話をさせていただきました。私の提案したことは選挙制度にも関わる問題ではあったので省きますと、当初党として16人という人数に妥当性があるかどうかという話をさせていただく中で、あまり好きではないんですけど、類団等の平均値も資料等に出ていまして、平均値でいうと17人となっております。それからいうと1名少ないということではあるんですけども、16人で頑張っていけば、今後10年、もしくは15年くらいは定数についての議論もなくいけるのではないかと考えています。

○委員長（三藤毅君） 続いて、日本共産党の報告をお願いします。

○委員（岡田隆行君） 前回出た意見を持ち帰りまして話をいたしました。現状維持は少し難しいだろうという意見が出ております。ただ、どれだけの削減になるかということだけれども、実際2千人に1人という一つの基準から鑑みると、今が3万9,203人ということになると、19人あたり。2年半後の選挙に臨むときには、残念ながら年500人くらい人口が減っていますので、3万8,000人を切る可能性はある。そうなってくると18人あたりになってくるんだが、今いけば19人から18人あたりかなというところを数としては出しています。ただ、際限なく下がっていくといけないので、似たようなところがないかなということで会派のほうで調べますと、竹原市が2万8,600人いるんですが、ここで14人の定数です。これは10年前から14人なんです、それまでは選挙ごとに22人から2人ずつ減らしていったという経過もある。しかしこの10年間は14人とまっている、なぜかなと思って問い合わせをしてみました。するとやっぱり、そこは2つの委員会を持っているようですが、機能を維持するためには14人を切るということはともしんどい状況らしいですね。うちも2万8,000人になるまであと1万人減ってしまうのは、悲しいかなやっぱりそういう計算もしなきゃいけない。20年先にはなっていってしまいますんでね。そういうところはまたそこで考えるにしても、今の段階ではやっぱり19人から18人だろうと思います。議会の機能を下げないようにしながらということになります。

○委員長（三藤毅君） 今ご意見を伺いますと、創生会19名、市民クラブ現状維持の20名、公明党16名、日本共産党18から19名ということでしたが、前回の会議の中で、無投票というところはどうか考えるんだというお話もしていたと思うんですが、その辺の協議の経過がわかればおつなぎをしていただきたいと思いますと思うんですが、創生会からよろしいでしょ

うか。

- 委員（本谷宏行君） 無投票と定数の関係ということですが、特段そこは考慮する必要性——もちろん無投票に終わったというところはいろんな要因があるということで、当然今後いろんな形でなり手がふえるような形になればいいということなんですけど、今回検討する定数については直接関係ないのではないかと、特段の関係がないのではないかとということです。
- 委員長（三藤毅君） 市民クラブは、何かその辺のお話はありましたか。
- 委員（土井基司君） 市民クラブとしては、結果的に無投票ということでしたが、それはなり手、なりたい人の数の問題なんで、定数が多いから少ないからというのは関係ないのかなど。大竹市も無投票になりましたが、これは定数が多いとか少ないとかじゃなくて、全体の傾向として議員になりにくさがあるんだらうと思いますんで、どうしたらいいかというのは、最初からテーマを設定してずっと話をしているわけですから、そのことを一生懸命やるということが重要なので、定数とは関係ないだらうということです。
- 委員長（三藤毅君） 公明党のほうは。
- 委員（加島広宣君） 現状の20人で前回無投票だったということですが、無投票と定数というのはあまり関係があるようには思っていないんで、当初から選挙に限らず市政全般に対して、市民の意識であったり、無関心であったりという部分のほうが重いんではないかなど。ただ、定数においては議員、そして選挙のときには同日に市長選もあって、特に市長においても政争の具として使われたりしやすい部分にもなってくるので、今回議長からの諮問ということもあって、現状維持というのは考えられないという方向です。
- 委員長（三藤毅君） 日本共産党からお願いします。
- 委員（岡田隆行君） 無投票と定数は、基本的にはリンクしないということです。たとえば定数を19人なら19人、18人なら18人に下げたとしても、それだったら立候補がそれを上回るかという保障は残念ながらないわけなんです。じゃあ今回どうしてそうなったかというのはここでもる話をしてきたんだけど、たとえば現職、1期目の方でも退かれていますよね。その辺の事情は個人的な体調の事情があったり、いろいろあるわけで、であれば今の20名がそのままスライドして次に出るのかというと、なかなかそれも難しい面もありますね。そうなってくると、たとえ19人や18人に定数を下げたとしても、それをカバーするだけのことにはならないわけだから、リンクはしていないということになります。なりにくさとか、片一方ではやっぱり議会の魅力を十分に伝え切っていないとか、あるいは参加型になっていないというところに元凶があるんだらうと思うから、リンクはしていないということです。

○委員長（三藤毅君） 無投票と定数は私もリンクはしてないと思うんですけど、どこの議会を見ても、無投票だからということで市民からの声が出て減らして、よその議会を見ているとそういう傾向がある。市民アンケートから、議員の数が多いというところについては、会派としてはどのようなお考えでしょうか。

創生会はどうですか。

○委員（本谷宏行君） まず、創生会の中も、先ほど19人という数字を出したんですけども、やはり現状維持という声も、逆に先日も報告させていただいたように18人という声もあるわけなんですけども、現状維持という声がある理由というのが、今いちばん多い意見が、現在こういう特別委員会を設けて議会改革に取り組んでいるといった中で、前回無投票という結果に終わって、市民の皆さんから定数を削減するという意見が市民アンケートからもあるんですけど、そういうことも当然市民の意見も視点として入れる必要はあるんだろうけど、やはり議会の機能を考えていくと、議会改革をやりながら市民の皆さんへはしっかりと説明をしていくと。議会改革にしっかりと取り組む中で、市民の皆さんにはそういうことを伝えていくことのほうが重要ではないかという意見がありました。反面、18人という意見は、今言われたようにやはり市民アンケート、市民の意見は大きいということもあるのは事実として受け止めて、ただ議会の機能としては最低限このぐらいの人数がいるのではないかと。

19人という人数の一番の理由が、今現在府中市議会で議会改革を行っているんですけど、そういった中で今後、今現在でも委員会で取り組んでいる各種団体との意見交換会を政策提言に取り入れたり、今後議会報告会のやり方も広報広聴特別委員会の中でいろいろ検討しているわけですけど、そういった市民の意見を吸い上げて政策提言に取り入れていくという活動を行うことで、現状維持ということも言われる中で、周辺部の意見が届きにくいということも言われるわけですけど、そういったことを先ほど言ったような取り組みでカバーをしていく。委員会としては、いろんな意見交換ができる、議論ができる人数として最低限6人は必要。府中市議会の現状を考えたときに、最低限現在ある3つの常任委員会からこれ以上減らすことはできないだろうということで3常任委員会と。それで、6人掛ける3つの委員会で18人。プラス、議長としては公正な立場で判断をしていただくために、プラス議長1名ということで、あわせて19名という結論を出させていただきました。ですから、市民アンケートを受け止める意見は両方にあったと。ただ、最終的には今現在行っている議会改革の中でしっかりと市民の皆さんには説明責任を果たしていくということです。

○委員長（三藤毅君） 市民クラブはどうでしょう。

○委員（土井基司君） 特にそれを題材にして話していませんけど、定数問題についてい

ろいろ話をする中での話をまとめると、一つは定数を減らしていくとそれだけ少数の意見が反映しにくくなるだろうと。それは周辺部の意見であったり、あるいは少数意見の市民の方々の意見を反映しにくくなるだろうという一般的などころでの考え方と、アンケートで確かに8割近い人が「削減すべき」となっていますが、「現状維持」と「増員すべき」という方もあわせれば14%ということで、少数ですけれどもいらっしゃいますから、その方たちがどういうことを考えてそういう意見なのかということも、このアンケートだけではわかりませんが、やはり少数意見の反映が難しくなるのではないかなということに危惧されているのではないかと思いますので、そのあたりをきっちり議論したうえで定数のことを考えないといけないんじゃないかなということは話をしています。

- 委員長（三藤毅君） 公明党は、アンケートがそうだから、そういうことですよ。
- 委員（加島広宣君） 本来自分たちの身分的なものを、自ら減らすという話がどうなのかなというのが個人的にはあるんですけども、当然自分の首を絞めるようになるんですけども、8割近くの方のアンケートを尊重して、限界までというところの数字にさせてはいただいております。
- 委員長（三藤毅君） 日本共産党はどうですか。
- 委員（岡田隆行君） 前回の選挙で無投票になったから定数問題が、というのではなくて、もっと前からちょっとどうなんだろうかこの人数は、ということが問題になっていたのは確かにそうだったと思うんですね。これがただ単に議会や議員の動きが見えないからもっと減らしてもいいんだという、もちろんそういう意見もあったんだろうけど、そうじゃなくて客観的に見て今の20人がどうかということが大事かなと思うんですね。前回も言ったように、5万人未満の自治体で同じようなところを見て、17.9人というのが出ていますよね。これも一つの指標ではあると思います。もう一つは、確かに声が聞きにくくなる、うちは庄原市の面積に比べれば6分の1の広さではあるんだけど、しかしそれでもやっぱり広いですからね。減らしていけば当然声は聞きにくくなるだろうということになるんだけど、ただ町内会で言うと半分以上のところから議員は出ていないわけなんで、こうなってくると議員の仕事は何なのかということをもう一回考えてみる。やっぱり全体を、先ほど本谷委員が言われたように、今から膝を突き合わせていろんなご意見を聞かせていただく場面を持っていくわけだから、議員が出ていないいろんなところへ行ってやるわけなんだから、そういうことでキャッチをしていくことによって、あらゆる人の意見を取り入れれば良いわけだから。もう一つ言うと、たとえ定数を19人、18人にしたとしても、先ほど言いましたように――してなかった場合を考えてみようか。削減してない場合は、今の20人が全員もういっぺん出ると、でも無投票ですよ

ね。もう1人誰か出ない限り選挙にはならない。しかしいろんな事情があるから、なかなかそうもいかない場合もある。そうなると、もし仮に20人のままでいって次の選挙をやった場合、市民の方、今の世論もアンケートに一部出ているけども、さてどう見るか。どうしてこういうことになったんだと必ずなる。じゃあ19人にしていって、同じような状況で19人しか出なかったと。あるいは割るようなことになったと。そのときはそうはいつでも努力はある程度したんだと、当然見てはもらえますよね。だから、ここが問題のように見えるけど、やっぱりさっきから出ているように議会改革を本気でやっているわけだから、ここを丁寧にやっていく中で、立候補してみようという人が出るかもしれない。こっちの部分を重要視していく必要があると思います。

○委員長（三藤毅君） 平成24年の議会改革特別委員会の中で、2千人に1人というような指標というか基準が示されて、協議されたような議事録が残っているんですけど、先ほど日本共産党が言われたように、5万人を切るような実態では大体2千人に1人くらいの感じで、先ほど言われた17.9人という数字も出てきますけど、これからずっと人口が減少していく中で、じゃあこの20人が保てるのか。ふやすというのはなかなか考えづらいと思うんですけど、前回協議された2千人の基準というところではどのように思われますか。

創生会は。

○委員（本谷宏行君） 前回の議会改革特別委員会の中で2千人という指標のようなものが示されたりというのももちろんあるわけで、やはりそれも検討していく必要があるのではないかということは当然話もしたんですけど、ただじゃあその2千人というのに根拠があるかといったら、実際そこはなかなか難しいと思うんで、その辺を考慮に入れつつ、もう一つには適正なあり方を考えるときに、いわゆる標準的な議員定数の計算式、関西学院大学の林宜嗣教授が出されていた計算式が——この計算式もあくまでも、この計算式にあてはめると府中市の議員定数が出てくるというものではなくて、基本的に全国の議会の81.8%がその計算式で計算するとその中に当てはまっているという、一つの考え方、基準ではなく物差し程度で示されているものがあるんですけど、それで計算すると府中市の場合、最新の人口や面積を計算式にあてはめてやると、19.25と。先ほど言われた2千人というものに関しても19人という数字にはなるのかなと思うんです。繰り返しになりますけど、人口2千人に1人ということも、今言った標準的な計算式とはいわれていますけど、科学的な根拠があるものでもなんでもないんで、ただ市民の皆さんに説明する一つの物差しとしてはある程度提供できるのかなということと、議会の中で19と決めた根拠は、先ほどお話ししたように1委員会の人数と常任委員会の数ということが根底にあるということです。

○委員長（三藤毅君） ちょっと私の聞き方が悪かったかもしれませんが、人口は必ず減っていきますよね。その減っていく状況の中で20人が守れるのかどうか、20人から減らすとするならどういう基準をもって——数字を出すんだから、その数字に根拠があるのかと言い出したらなかなか議論が難しくなるんで、そういう意味で、2千人基準で1人ずつ、大まかにいけば年に500人ずつ減っているわけだから1期4年の中で2千人、1期ごとに1人ずつ減らすことが前回では検討されていたということですね。そうはいっても、2人ずつ減らしてきた経過がありますよね。府中市議会は、申し合わせがあったのか確認はしていませんけど、複数で減らしてきている。これから減っていく中で、今岡田委員が言われたように、前回の無投票をどう考えて、次も無投票だったらどうなるか。無投票と定数は関係ないんだからそれでいいでしょうということのも一理屈ではありますが、そのままで終わっていたら何もしなかったのかという話にもなりかねない。その中で前回無投票をどう思われるか会派で協議していただけないかという話をしたんですけど、今2千人と言ったのも、人口が減っていく中で、何かの基準を持っておけば、府中市議会は、ふやすということはまず考えられないので、そういうことが決められれば皆さんにも説明しやすいというか。多分毎回これからの選挙では、議員定数が多いということが出てくると思うんですよ。そういう声が出ないように、我々が議員としての活動を市民にわかりやすくしなければならぬというのが大前提なんです。そういう意味での人口減と定数をどう考えるかという点ではどうなんですか。

○委員（本谷宏行君） そういう意味で、たとえばそういった基準——これは基準という言葉には当てはまらないとは思いますが、要するに説明するための、科学的な根拠ではないけど市民の皆さんに理解をしていただくような説明するための一つの物差しとして示せるものであれば、人口2千人に対して1人というものもいいのかもしれないですけど、それよりは現状で全国の議会の81.8%がそれに当てはまるということを考えれば、先ほど言った林教授が出されている標準的な議員定数の計算式のほうが、もう少し物差しに近いものになるのではないかという気はします。人口や面積といったものを計算式の中に組み込んだものになっているので、人口も入っているということになると思います。

○委員長（三藤毅君） 市民クラブ、土井委員。

○委員（土井基司君） そういう話になってくると、議会が果たすべき役割の話にまた返ってしまうんですが、スタート時点でどこからスタートするかです。合併して特例の時期を除けば24人からスタートしていて、今20人。人口の減り方よりは若干早めに減っていつている。そういうあり方が良いのかどうかという話になってくる。人口が減っているから議員の数も減るとするのは、ある程度やむを得ないことかもしれないけども、

じゃあ人口が減るよりも早く議員が減っていった方がいいのかということですよ。ということは、逆にいったらもっと人口が減る、議会が力を発揮して町を元気にしていかなくちゃいけないのに、あきらめて先に議員の数を減らしていくというやり方でいいのかという話になってくると思うんですよ。職員に限っていえば30何%減っているからもっと減っている、人口の減り方の倍くらいの減り方をしているわけですけど、そうやってどんどん減らしていくと、どんどん町の元気がなくなっていくんじゃないかという危惧もあるし、そういう意見もあるんで、そこら辺は単純に人口が減っているから議員を減らせばいいというものではないと思います。

○委員（本谷宏行君） 今一つの物差しという提案があったのでそういうことをお話ししましたけど、創生会としてもあくまでも、先ほど理由の中で述べさせてもらったとおりで、当然市民福祉の向上が最終目的ですので、そこができる議員の適正な人数を考えたときには、委員会で議論できる人数と3委員会が大前提となると理解していただけたらいいかと思います。あくまでもそれを一つの物差しとして説明するものだけなんで、その計算式が、また人口2千人に1人というのを根拠に定数を決めていくというものでもなんでもないと思うんです。

○委員長（三藤毅君） 私は前から、議員定数の問題は議会改革じゃない、行財政改革だと言っているんです。そういう意味では人口が減れば税収が減る、税収が減ればその中でやっていけないといけないんだから、議員の数も職員の数も減るという形だろうと思うんですが、財政が潤沢ならいくらでも、もっと言えば定数と報酬という話にもなってくると思いますけど、そこら辺のバランスを取って人数と報酬と政務活動費というところ、それは財政と絡んでくるようなところだと思うんですけど、そういう面で人数が減る、税収が減る中で、先ほど土井委員が言われたように先行することはないんだと。20人で、今ぎりぎりまで来ているところですよ。いわゆるとんとんというようなところ。そういう意味ではどうですかね。

岡田委員。

○委員（岡田隆行君） いろんな観点で考えてはみたんですが、他市の状況も電話で聞いたりする中で、たとえば一番小さい市、全国でも小さいのが竹原市。何が小さいかというと14人という議員数が小さい。あとは、見ていると全部町とか。市では竹原市は全国でも小さい。どういう形でそうなったのかということ電話で聞いてみたら、平成6年には22人だったと。その頃は3万4,000人。それが平成10年、4年ごとに変わっていているんですが、20人にする。平成14年に18人、平成18年に16人、そして平成22年に14人。そして今、10年間変えずに14人のままと。14人を割ると、2委員会制だけでも機能しなくなるだろうというので、ここでとめているという話をちょっと聞きました。議会



として機能を果たせることが重要になるのかなど。

確かに先行してどんどん減らしていくということは、機能が低下することにつながることはあるんだろうけども、何かのスタンダードがないと市民の方が納得できない。議会改革は当然やっていきながら、そのためにこの1年論じてきたんだから、定数はスタンダードを設けて、2千人減ればやはり1人減るという形にしないといけない、財政的な面もあって。そういう面もあるだろうと思います。

○委員長（三藤毅君） 今、岡田委員が言われた何かのスタンダードがあればというのが私もそう思うんですが、その点についてはどうですか。これから先もずっとこの定数の問題は引き続き出てくると思うんですけど、そういう意味では何かスタンダードな基準があれば。先ほど本谷委員からは計算式がいいんじゃないかという話もありましたけど。

公明党が言われた16人、もう一挙にやっちゃえば当分話はないというのは、それも一つの考え方とは思いますが。

○委員（加島広宣君） 岡田委員が言われるように、同じ県内に竹原市があるので、それからすればそこくらいまでの削減をしておけば、今後10年、15年くらいはという思いがあります。

○委員長（三藤毅君） 一気にというのは何か意味があるんですか。

○委員（加島広宣君） 意味は特にありません。

○委員（加納孝彦君） 会派のほうで決めたことは本谷委員が説明されていますが、全体で3委員会は必要だろうという話は、一定程度の結論が出たのではないかなと個人的には思っているのと、委員会の数でいくと、今6人でやっている委員会があつて、これ以上の数が必要だという根拠は何もないというのも会派の中で出ました。ということであると、6人が一定程度の3委員会の今の基準であろうと思うんです。たとえば委員会を5人にしたときに3委員会制が維持できるかということ、ここから先は賛否を問うとき、委員長をのけたら2対2になるんです。そういうことになってくると、さすがに5人で1つの委員会が維持できていくのかなというのは、私は非常に疑問があつて、そこで3委員会で十分というのはちょっと厳しいかなと思うところがあります。一気にやっておけばと言われることに関しては、片方ではそういう意見もありつつも、10年後、15年後のことまで今の議員が——一定程度の基準は示してあげておくのがいいのかもしれないですけど、数で縛ってしまうと、それこそ一気にいっても多いと言われる人は多いと言われるし、上げたほうがいいんじゃないかと言う人もおられるかもしれない。きちんと時代の流れに即した基準を持って、段階的に決定できるような仕組みや基準を今回の議会改革特別委員会で決めてあげて、そこに向かって進んでいくというほうがわかりやすくいいんじゃないかと個人的には思います。じゃあこれがいいというところはないん

ですけど。私は、今回会派の中では19人とさせていただきました。

- 委員長（三藤毅君） いろいろ議論していただいたんですが、ほかにこういう視点からとか、こういうことは考えなくていいのかということがありますか。
- 委員（本谷宏行君） こういうところはということではなくて、今までこの特別委員会でも視点を挙げて検討してきたので、その辺は先ほど言われたような市民の声、市民アンケートも考慮に入れて、議会の機能や権能の視点からもいろいろと検討してきた結果、創生会としてはそういった数字を出させていただいたという結論になります。
- 委員長（三藤毅君） 私が言っているのは、皆さんのほうで漏れがないかというのを聞いただけなので、なければいいんですけど。

岡田委員。

- 委員（岡田隆行君） 漏れではないんだけど、今日に向けての資料をよくまとめてくださっていて、書いてくださっている中に「削減するなら補完する機能が必要だ」と。「政策提言機能、監視機能を高めていく必要がある」と。「現状で二元代表制が機能しているのか」という部分、そうなってくると1人減らすとなって、何かの形で機能が低下するということになるともちろんそこを考えていかなきゃいけないだろうとは思いますが、もう一つは二元代表制が機能しているのかとなると、たとえば25人いれば機能するのかという問題になってくるよね。私は、それはちょっと違うんじゃないかと思うんで、やっぱりこの提案がいいのかどうかというのをきちんと分析もでき、批判もでき、肯定ももちろんできるけれども、そういう力をお互いがつけていくというレベルになっていくのではないかと思うんです。人数ではないという気がするんで、この辺も会派で話をしたので出させてもらいました。
- 委員長（三藤毅君） 皆さんの話を今伺っていると、市民クラブが20人、創生会が19人、共産党が19から18人、公明党が16人という形なんですけど、この委員会としては減らすか維持か、今お聞きした中では減らすという方向なんですけど、市民クラブにお伺いしますが、もし減らすとすると1減とか2減とか検討していただく余地はあるのかどうか。私の思いとすれば、多数決で決めるということはなるべく避けたい。やはり議会改革特別委員会で議員全員の合意で、それぞれの思いはいろいろあると思いますが、一応納得したというような、全会一致をもって決めたい思いはあるんですけど、そういう意味で今出てきたことを踏まえて、検討していただく余地はあるんでしょうか。
- 委員（土井基司君） 検討する余地があるかないかと言われれば、検討はしますとしか言いようがないですね。
- 委員長（三藤毅君） 今出たような意見について、会派としてではなくこの特別委員会の中の一委員としては何かありますか。

- 委員（土井基司君） 組織の規模としてどんどん縮小しているのが現状というのは事実で、この流れをとめるのは相当な努力をしても難しいというのも現実だと思いますんで、その中で議員の数というのもずっと現状のままでいけるという認識はしていません。
- 委員長（三藤毅君） 仮に19人だったら、公明党は多すぎると言われるかもしれませんが、奇数の定数になるということですよ。元来、府中市議会は偶数で減らしてきたという経過もあるんですが、そこにあまりこだわりはないということですか。偶数がいいか奇数がいいかということは議会によっていろいろ思いがあるところだとは思いますが、その点についてご意見があればお聞かせ願います。
- 委員（土井基司君） 意見というより、経過として、偶数にこだわってきた経過というのがあるかどうかというのは、事務局のほうで何かありますか。
- 事務局長（赤利充彦君） 全国的な話の中で、偶数が多いというのが、やはり最終的に議長が決を取るのではなく、議員の皆様方だけで決がはっきりできる、そういうために偶数が多いんだということを有識者の方から聞いたことはございます。これは全国的な傾向だと。だから、奇数にしてしまうと、可否同数になった段階で議長に委ねるということ避けるために、基本的には偶数がほとんどだと聞いたことがあります。
- ですから、議長に判断してもらうところまでいかせない。議員だけで決めるということで、そういう状況が出てきていると。
- 委員長（三藤毅君） 先日の議会シンポジウムの中では、その話は江藤先生から出て、江藤先生個人的には奇数が好きだと。やはり賛否同数のときに議長の権限としてそれはあるわけだから、それを残しておくためにも奇数のほうがいいと思うと。それを避けてきた、そこまで持っていかせないためには偶数ということなんですけど、今まで府中市議会は偶数できたわけなんですけど、そこら辺の偶数、奇数にはあまりこだわらないということよろしいでしょうか。
- 委員（岡田隆行君） 基本的には、最終権限は議長にあるという、これは非常に重いですよ。だからこそ議長なんだと思うんです。ただ単に司会じゃないんだよということですよ。それはそれとしてあるので、本来は偶数でも奇数でもいいはずなんで、しかし奇数になると権限が最終的に残るから、そのほうがいいと。今回の場合は1名減で、2名減らすとなると先ほどのスタンダードからいっても大幅すぎるような気がします。となってくるとやはり、19人で、奇数だけれども私はそれでいいと思います。
- 委員長（三藤毅君） もっと言えば次のときには偶数でもいいと。そういう話でもいいということですね。偶数、奇数と交互になっても。
- 委員（岡田隆行君） あり得ますよね。ただ、それをちゃんと説明できればいいと思います。

○委員長（三藤毅君） ほかにご意見はありますか。

皆さんの意見を聞かせていただいたので、市民クラブにもう一度19人という線で検討してもらうことはできますでしょうか。

○委員（土井基司君） 19人ということで話をするんですか。

○委員長（三藤毅君） 公明党が16人ということだったんですけど。

○委員（加島広宣君） 偶数にこだわっていたわけではないんですが、全国の類団の平均値が17.0ということで、17人でもいいのかなという思いも少しあるんですが、全国の平均について皆さんはどういうふうにお考えかなと。

○委員（加納孝彦君） それは多分人口比較の平均だと思うので、その根拠を示すのであれば、最初に本谷委員が言った計算式を採用するほうが説得力があるのかなと思います。たとえば人口が20万人いても、府中市の10分の1の面積に住まれている市だってあるわけですよ。逆にいうともっと広い土地に府中市と同じ人口程度が住まれているところもあって、その人口で平均を取ったら17人となったというのは、私としては個人的にはあまり好きではない。面積ベースも考慮されている計算式のほうが一定程度の基準にはなるかなと。

○委員長（三藤毅君） 他に、類団に関して。

○委員（本谷宏行君） 先日の江藤先生もですけど、ほかの有識者の方も言われていると思うんですけど、やはり類似団体と他市町と比較するのはあまり意味がないということを言われています。私も実際そうだなと思うのは、府中市というのは独特な産業構造があったり、都市部と中産間地域という、地域性といっていかがわかりませんが、独特な部分もあると思うので、それプラス何が重要かといったら、先ほどの有識者の方々も言われるのは、府中市議会として市民のためにどういう議会にしていきたいのかということが求められているわけなので、ただ類似団体がこういうふうにするから右へ倣えというものでは、これから行政もそうでしょうけど議会も取り残されていく考え方の一つなのかなという感じはします。

○委員長（三藤毅君） 他に、類団比較に関してございますか。よろしいですか。

○委員（土井基司君） 類似団体というのは結局行政としての策を考える上での参考ということで設定されているものですから、財政の規模がどれくらいが適正なのかとか、財政の具合がどうなのかということと比較するためのもので、議員の数はそういうものとは別だろうと思います。だから、同じような人口で同じような面積や産業構造の中でどれくらいの財政規模だったら無難なところなのかというのが類団というものの使い道であって、議員の数というのは最終的には、どんな町をつくるかという中の一部ですから、数人の議員でもいいというまちづくりを目指すのか、極端に言えばもっとふやしていっ

て、いろんな人が参画できるようなものを目指すかという、どんな町を目指すのかというところなんで、類団と直接に比較はできないのかなと思います。ただ、あまり突出して変わったことをしてもうまくいく確率は低くなるんで、ある程度にらみながらも、直接は関係ないんじゃないかなと思います。

○委員長（三藤毅君） 話を戻しまして、そういう意味で、市民クラブのほうで、19人で検討くらいはしていただけるでしょうか。

○委員（土井基司君） 検討は持ち帰って話はするんですけど、14%の人たちの思いもあると思いますんで、今まで話してきたことの延長になりますけど、どうやって少数者の意見を吸い上げていくかというか、基本的には市民のいろんな意見をどうやって吸い上げていくかという問題になると思うんですけど、そういう機能を強化していかなくちゃいけないというところをきっちりやっていくというのが重要だと思います。それとセットで考えないといけないと思います。

○委員長（三藤毅君） それはおっしゃるとおりですね。今定数が20人で町内会が70、そうかといって70人議員がいるわけではないですし、大きいところや小さいところもさまざまですけど、そういう意味では今言われたように、いかにして地域の課題、意見、要望を拾ってそれを解決していくかというところだと思うんです。それは前回なり手不足の中で、情報発信等ということでやってきましたけど、それはそれでやっていけばいいと思います。

公明党は19人で検討はどうですか。

○委員（加島広宣君） 持ち帰ります。

○委員（加納孝彦君） 持ち帰って話をするのは、19人ということだけでいいですか。

○委員長（三藤毅君） 何か意見がありますか。加納委員。

○委員（加納孝彦君） 創生会が19人と言ったからほかのところへというのではなくて、ほかのところの意見に対するほかの会派の考え方も整理をしてくる必要はないでしょうか。

○委員長（三藤毅君） それは今出たようなことを踏まえて、会派でもう一度検討していただく。今度は最終決定というところで数字を合わせて、できれば委員会としてもこの線で行きたいという数字を出していきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。何か付け加えがありますか。

○委員（加島広宣君） ですから、創生会のほうでは19人という結論に至ったということでもいいんですかね。市民クラブのほうを持ち帰りということですけども、日本共産党のほうは19人か18人か。

○委員（岡田隆行君） どこまで減らしても18人ということだったんだけど、全体の流れとして今の数式なんかも聞かせてもらいながら、19人ならもう一度持って帰って検

討できるなど。18人まで下げる必要ないなと思います。

- 委員（加島広宣君） ですから18ではなく19人ですね。
- 委員（土井基司君） ここでは19人という数字を各会派に持って帰って話をするということでもいいですね。
- 委員長（三藤毅君） それでもいいですかという話です。
- 委員（土井基司君） 市民クラブが、とか公明党が、というのではなくて、全会派でということですね。
- 委員長（三藤毅君） 今まで聞いた数字の中からということです。委員会としては18人だろうという意見があれば言っていただければいいですよ。

最終的に、もう一度19人という線で会派の中で話をさせていただいて、こういう基準が市民には説明しやすいだろうと、いろいろ先ほども出ましたが、そういうのを次回御報告願えればと思いますが、それでよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

- 委員長（三藤毅君） では、そのようにさせていただきます。  
次回には特別委員会としての結論を出していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。ここままで、何か特別に質問等はありませんか。
- 副議長（大本千香子君） すみません、議論が残っている部分だけちょっと伺いたいんですけれども、議員の機能として市民の声を聞くというのがあると思います。今回定数を考える際に、たとえば減らすと市民の声がたくさん聞けなくなるというご意見がありますよね。では、たくさんにしたら市民の声がたくさん聞けるのか。この市民の声を聞く機能について、定数の増減とどういうふうに考えていったらいいのか。  
今回19人で持ち帰り検討ということになったわけなんですけれども、たとえば今の状況で報酬を減らしてでもたくさん的人数を出して、たくさん声を聞く議会がいいのか、それとも少ない人数でもきっちり聞いていくようなものを何か考えて、少ない人数にしていくのか、その機能についてはどんなふうに考えていたらいいですか。
- 委員長（三藤毅君） 今のお話は、なり手不足のところからずっと話をきて、議会報告会のあり方——今までのようなことではなく市民の声を聞く座談会とかワールドカフェとかいろいろな方式も踏まえて、回数をふやすというのが一つあると思いますね。どういふ分野でどういふふうにやるかというのは、また広報広聴特別委員会のほうで、ここに出てきた意見を踏まえていろいろ考えていただければいいと思います。多数参画型とか、そういう話をしてくるとそれはそれですごく時間がかかることだと思ひ、もう一つは、報酬とすごく絡んできますよね。それくらいの認識ではどうですか。
- 副議長（大本千香子君） 委員会として定数の結論を出した場合、市民に説明する責任

があると思うんです。そうしたら、いろいろ出た意見の中で、ボランティアに近い報酬でたくさんの方が参加するような議会がいいんじゃないかというお声もある。あるいは、きっちりプロフェッショナルな感じの少数精鋭の議員で報酬は高くてもやってもらってもいいんじゃないかという、両極端な——国の方向でも両極端なところがあると思うんですけど、これについてはうちの議会としてはどういう判断をするのか。

- 委員長（三藤毅君） 皆さんからご意見はありますか。
- 委員（本谷宏行君） 今言われたのは、国の「町村議会のあり方に関する研究会」の件ですよね。その議論に関しては今回この特別委員会では一切されてはないと思いますし、これはあくまでも個人的な考えですけど、全国市議会議長会も言われているように、現在府中市議会としては議会改革特別委員会を進めながら少しでも市民の理解を深めて、市民の声をどういうふうに吸い上げて政策提言につなげられるような議会にしていくかということが問われていると思うので、その議論はしてきたと思うんですよ。今副議長が言われたように、じゃあどういう取り組みをやっていくのかというのは具体的に挙げて市民の皆さんに説明する必要はあると思いますし、そこは広報広聴特別委員会と歩調を合わせて連携を取って、実際取り組みを検討していただいている途中ですから、そういうことになるのかなと思います。それを踏まえたものを、答申の中に含めて出すということになるんじゃないんですか。
- 副議長（大本千香子君） 19人を超えることはないと思いますんで、その人数でいくとある程度専門的なのとか、そうした人が市民の声をたくさん聞いてやっていく方向で府中市議会のスタンスでいきますよという思いでよろしいんですよ。
- 委員長（三藤毅君） 当面はそうです。今副議長が言われたように人数が多いとかそういうのは、今の状態からするとそこへいかないと思うんですよ。何年もかかっていって、試行錯誤でいろいろな意見を聞きながら、そういう中から府中市議会として多数参画型みたいなのがいいのかなという声が出れば、それはそれで変わっていくかもわかりませんが、現状からそこへすぐはいきづらいんじゃないんですかね。
- 副議長（大本千香子君） どちらにしても、こういうやり方はどういうふうに検討されたのかという質問が出ると思うんです。それについて、今の府中市議会は、現状、皆さんの声を代表として20人弱の議員で吸い上げて、それで提言していくというスタイルでいくことをベースに人数の検討をしていると判断してもらっていいということですよ。
- 委員長（三藤毅君） そうですね。だから、年どれくらいの回数でそういうものを開かなければならないか。議会報告会は年1回の8会場というペースですけど、そういうやり方を繰り返していくしかないんじゃないんですか。そういうことで皆さんよろしいですか。

○委員（岡田隆行君） 今副議長が言われて、私も少し思うのは、20人だろうと25人だろうと町からいけば半分にも満たないわけなので、本来は私たちが行ってキャッチするような形をしない限りは、30人だろうと40人だろうと網羅することはできないわけなので、基本的にはそういうスタンス。片一方で進めている議会改革をきちんとわかりやすいものにしてお伝えしながら、定数はまた別問題だから、財政規模からいっても人口規模からいっても適正なのがこれくらいだからということはある。両方をセットにしてやっていくことが必要だと思います。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） それでは、次回の日程について確認いたします。次回は8月19日（月）13時から第二委員会室で開催いたします。

そのほかに何かございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

なければ、以上で議会改革特別委員会を散会いたします。

午後3時9分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年10月4日

府中市議会改革特別委員会
委員長 三 藤 毅